

議会だより

12月定例会

■発行／八千代町議会

No.188

■編集／議会だより編集委員会

行政組織設置条例の全文改正を議決

令和4年第4回定例会は、12月6日から14日までの9日間の日程で開催されました。この定例会では、町執行部から行政組織設置条例（全文改正）をはじめ、補正予算など12議案が提案され、審議の結果、全ての議案を原案のとおり可決しました。一般質問は12月13日と14日に行われ、7人の議員が登壇し、町の方針をただしました。

可決した議案内容

● 報告

◇水道事業会計積立金運用の報告

地方公営企業法により、建設改良積立金5億円の資産運用を行ったことを報告するものです。

● 条例

◇個人情報保護に関する法律施行条例

個人情報保護法の改正に伴い、地方公共団体の個人情報保護制度が条例から法律に移行されることから法施行に関し必要な事項を定めるものです。

◇情報公開・行政不服審査会条例の一部改正

個人情報保護制度の個人情報保護法への移行に伴い、同報に定める審査会に関し必要な事項を定めるものです。



◇職員の定年引上げに伴う関係条例の整備に関する条例

地方公務員の定年を令和5年度から段階的に引き上げることに伴い、関係条例を整備するものです。

◇職員の降給に関する条例

地方公務員の定年引上げにより、役職定年制が導入されることに伴い降給を行うため制定するものです。

◇行政組織設置条例（全部改正）

分かりやすい行政窓口を提供し、的確な住民サービスを提供するため、行政組織を見直すものです。

行政組織再編の主な内容

- 「秘書公室」、「総務部」、「企画財政部」は、「秘書公室」と「総務部」に再編されます。
- 窓口部門として新たに「町民くらしの部」が設置されます。
- 教育委員会に「教育部」が設置されます。

◇職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告に基づき、次のとおり改正するものです。

- ・令和4年4月分から適用
給料表の改定（平均0.3%引上げ）
- ・令和4年6月分から適用
勤勉手当の支給月数の改定（0.1月分引上げ）

● 予算

◇一般会計補正予算（第5号）

歳入歳出をそれぞれ4億3844万9000円増額し、予算総額を88億7330万1000円とするものです。

歳出の主な内容は、ふるさと納税謝礼を含む総務管理費3億513万円、戸籍システム改修業務委託料を含む戸籍住民基本台帳費502万4000円、障がい者自立支援給付費を含む社会福祉費1億47万8000円、主力産品振興助成金を含む農業費4947万5000円、町道舗装補修工事請負費を含む道路橋りょう費2000万円、光熱水費を含む保健体育費580万5000円を増額するものです。

◇介護保険特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出をそれぞれ4407万6000円増額し、予算総額を19億6333万9000円とするものです。

歳出の主な内容は、償還金、一般会計繰出金を増額するものです。

◇農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出をそれぞれ370万8000円増額し、予算総額を2億9936万円とするものです。

歳出の主な内容は、光熱水費を増額するものです。

◇下水道事業特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出をそれぞれ204万1000円増額し、予算総額を5億2223万6000円とするものです。

歳出の内容は、人事異動に伴う職員人件費を増額するものです。



● その他

◇ 町道路線の認定

旧鬼怒川橋の解体により国道125号の旧道区間が町に移管されることに伴い、町道として認定するものです。



茨城県から移管される町道1791号線
(本郷地内)

◇ 下妻地方広域事務組合規約の変更

下妻市の新庁舎建設に伴い、下妻地方広域事務組合の事務所を下妻市中居指地内に移転するため規約を変更するものです。



第2回臨時議会

令和4年第2回臨時議会は10月17日に開催されました。この臨時議会では、補正予算1議案が提案され、原案のとおり可決しました。

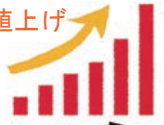
● 予算

◇ 一般会計補正予算(第4号)

歳入歳出をそれぞれ2億2169万7000円増額し、予算総額を84億3485万2000円とするものです。

歳出の内容は、庁舎空調機能強化事業費を含む総務管理費5223万円、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業費を含む社会福祉費1億1410万7000円、新型コロナウイルスワクチン接種事業費を含む保健衛生費5536万円を増額するものです。

値上げ



小島由久議員の

ご逝去を悼む



八千代町議会議員の小島由久氏が、去る令和4年10月27日に逝去されました。

同氏は、平成7年、町議会議員に初当選されて以来、連続7期、26年10カ月にわたり在職し、この間、議長をはじめ、総務常任委員長、産業建設常任委員長、議会運営委員長など数々の要職を歴任され、町の振興と発展のためにご尽力されました。

八千代町議会は、同氏の生前のご功績を讃えるとともに、ここに謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

◇ 研修視察報告 ◇

去る令和4年10月4日から6日までの3日間、議会議員研修視察のため宮城県南三陸町、気仙沼市、岩手県陸前高田市方面を研修してまいりました。

初日は、東日本大震災の被災地である南三陸町の復興状況を視察してまいりました。「語り部活動」を行っている現職の議会議員の方とともに被災現場を回りながら、若き町職員が懸命に避難を呼びかけ続け、命を落としてしまったエピソード、被災当時の生々しい状況、意識の違いにより生死をわけることになった話など、貴重な体験談をお聞きすることができました。被災後11年以上が経過し、10メートル以上の嵩上げ工事を中心とした復興事業はほぼ完了していましたが、随所に空き地が見受けられ、本当の復興はこれからであると実感いたしました。一日も早い復興を祈念し、今後の経過を見守ってまいりたいと思います。

続いて二日目に訪問した気仙沼市は、宮城県の北東部に位置し、人口約6万人、日本有数の漁港都市として有名であります。気仙沼市議会では、より活発な議会を目指して積極的に議会改革を行っており、その一環として令和2年からタブレットを導入し、公務に加え、災害時の情報共有や、市民への分かりやすい情報提供などの政務活動にも活用しているとのことでした。また、市の課題などについて、団体等と議会が自由に意見交換を行う「一般会議」、市民と議員との「意見交換会」や「議会報告会」を実施し、常に市民の声を聞きながら、議会活動に取り組んでいるとのことでした。

次に、陸前高田市にあります東日本大震災津波伝承館を訪問いたしました。復興のシンボルとして有名な「奇跡の一本松」があるところでありました。説明員の方に館内を案内してもらい、津波の恐ろしさを改めて認識するとともに、防災の重要性を痛感いたしました。

以上、研修視察概要の報告といたします。

地域社会の環境変化の対応について



安田 忠司 議員

遊休農地は、令和3年度末時点で69・8ヘクタール、農地全体の約2%となっています。

農業委員会では、農業委員、農地利用最適化推進委員が農地の見回りを行い、遊休農地が発生した場合は所有者や耕作者に声掛けをするなど、発生防止や解消に努めています。

安心して生活するためにも、生活環境の充実は大切です。しかし、時代の移り変わりによって、空き家や耕作放棄地は年々増加する傾向にあり、その対策は急務であると思われま。当町における現状と対策について伺います。

町内一斉芝焼きについては、平成30年度まで実施されていましたが、その後は中止となつています。農地に草木がはびこり、十分な保全管理がされていない状態では、アライグマやハクビシンなどのすみかとなつてしまう恐れがあります。町内一斉芝焼きの再開を要望しますが、見解をお聞きます。

農業委員会事務局長 町内の

出産・子育て応援交付金事業について



中山 勝三 議員

国では「出産・子育て応援交付金」を創設し、妊娠期間や出産時、特に0歳から2歳の低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児等の見通しを立てるための面談と経済

きます。

町内一斉芝焼きについては、火災が多発し、建物火災や人的被害などが生じる恐れがあることから、関係機関と協議し、令和元年度から実施していません。農家の方には収穫後の早期耕運、雑草管理、農薬による防除などの病虫害の防除対策を呼び掛けています。また、事前に消防署へ届け出をすれば、行政区などが主体となり芝焼きを実施することができま。

支援、継続的な情報発信等を行うなど、伴走型の相談支援の充実を図ることとしています。当町におけるこの交付金の計画を伺います。

保健福祉部長 伴走型相談支援については、出産・育児の見通しを立てるため、妊娠初期、妊娠8カ月頃、出産後の3回の面談を実施することとなっています。当町では、既に保健師や母子保健推進員による相談体制を取っています。が、子育て支援センターや保育園などと連携し、より一層強化させていく考えです。

町長 「出産・子育て応援交付金」については、妊娠届け出時と出生届け出後の面談終了後にそれぞれ5万円相当、合計10万円相当を支給することを国では推奨しています。支給方法は、自治体の判断によってクーポン券や現金による給付が可能とされていますが、効率的な給付方法を今後検討していきます。

当町では、令和4年10月にベトナム国ラックズオン県と友好都市提携協定を締結しました。この協定では、農業、観光、人材育成、文化交流の4分野について協力を行うこととされています。実り多い友好都市となるための町長の展望と方策をお聞きます。

町長 農業の分野では、町内の農家への研修生の受け入れ、農産物の加工技術の研修や鮮度保持に関する技術研修などを行っていく考えです。観光の分野では、両者の観光案内などを作成し、旅行会社や地域住民へ宣伝を行っていく考えです。人材育成については、農業研修生のほか、職員の交流などもできればと考えています。文化交流については、八千代高校など、学校同士のオンラインでの交流などを検討していく考えです。



少子化に対して町は対応策をどのようになっているか



大久保 敏夫 議員

私が小学生、中学生だった昭和30年代から昭和40年代では、1学年に144人いました。令和5年度以降の中結城小学校の就学予定者数を見ますと、1学年30人から50人の間で推移していくという見込みも出ています。

出生数の減少を防ぐ手立て、例えば出産子育て奨励金を第2子に200万円、第3子以降に300万円支給するなどの考えはあるのか、お聞きします。

企画財政部長 町では出産子育て奨励金として、第1子・第2子が生まれたときに20万円、第3子以降では30万円を支給しています。

町長 内閣府の報告によると、少子化の原因には「未婚

化、晩婚化の進展」「夫婦の出生力の低下」が挙げられています。少子化対策は国全体で取り組むべき課題であると認識しており、町としても出産・育児に対する支援を引き続き行っていく考えです。

出産子育て奨励金の増額については、画期的な金額を支給することも検討の材料とはなりますが、生活面や教育面など、子育て世代に魅力ある政策を検討していく必要があると思います。



菅谷地内にある八千代工業団地では、現在3社の企業が立地し操業をしています。企業誘致には増収増雇や雇用の拡大が見込まれますが、当町への影響と、工業団地の近辺にはまだ町有地があると思いますので、その活用についてお聞きします。

町長 八千代工業団地にはネームバリューのある企業に

1級町道15号線道路改良について



大久保 武 議員

芦ヶ谷新田地内を通る1級町道15号線は、東仁連川から南総土地改良区の区域を坂東市方面へ進み、飯沼川までつながる道路です。この道路は、地域住民の生活道路とし

来ていただくことができ、当町の経済や産業の活性化に大きな期待が持てます。操業開始から3年間は課税減免となりますが、減免期間が終了すれば3社合計で固定資産税が約1億円増収となる見込みです。

工業団地近辺の町有地についても、企業誘致も含め有効な活用方法を検討していきます。



て重要であることはもちろんですが、圏央道の境古河インターチェンジへのアクセス道路として、通勤などの交通量も多く、安静地区の産業発展に大変重要な位置付けの道路です。しかし、この道路の東

仁連川に架かる橋は、上流側には舟戸橋、下流側には松下橋がありますが、どちらの橋も幅が狭く、車両のすれ違いに難儀している状況です。地元では一日も早い工事の着手に期待を寄せています。本路線の整備計画について、答弁を求めます。

産業建設部長 本路線については、これまでに平面測量、橋りょう概略設計、路線測量、土質試験調査、道路詳細設計、橋りょう予備設計を実施してきました。

橋りょうの整備には多大な財源が必要となりますので、財源の見直しを検討していく考えです。

町長 本路線は、地域住民

の生活道路として、また、圏央道の坂東インターや境古河インターへの広域交通網の確保として、大変重要な位置付けになっているものと認識しています。

現在は、筑西幹線道路、広域農道、1級町道8号線、1級町道5号線などの整備を進めている段階であり、また、行政区から道路補修などの要望への対応も順次行っている状況です。

道路の整備や維持管理については、町民の暮らしや町の発展に直結する部門でもあることから、事務体制や財源等のさらなる見直しを進め、事業の進捗を促進させていきたいと考えています。

本路線に関しては、隣接する坂東市の市長とも話し合いを行い、協力体制で進めていく考えです。できる限り早く整備を進められるよう努めていきます。



1級町道15号線
(芦ヶ谷新田地内)

ソーシャル・エンゲージド・アートを活用したまちづくりについて



谷中 理矩 議員

まちづくりにアートを取り入れる「ソーシャル・エンゲージド・アート」という取り組みがあります。海外では、この取り組みによって文化の保全や地域コミュニティが新たに構築されたといった報告があり、県内の自治体でも取り組んでいる事例が見受けられます。

町長 これまでも芸術や文化を用いた取り組みが行われてきましたが、町が抱える課題の解決につながるようなものは過去になかったと思われる、当町ではまだ調査研究が必要な取り組みであると認識しています。例えば、川尻地

(※注)
ソーシャル・エンゲージド・アート
アーティストが社会や地域などのコミュニティに介入し、社会変革、課題解決などに取り組むこと。

内にある旧中山邸をそういった取り組みに活用できないか、検討をしていきたいと思っています。

行政が担う業務はますます増加してきています。行政でしかできない業務を行政で行い、それ以外のものはなるべく民間に委託して、体制のスリム化を図ることが町長の考えだと思えます。民間の事業者が協力を提案しやすい環境をつくるため、代表となる総合窓口を設置する取り組みも必要であると考えますが、町の考えをお聞きします。

企画財政部長 現在、町では高齢者支援、障がい者支援、青少年健全育成、健康増進、災害対策、スポーツ振興、食

町の財政状況について



宮本 直志 議員

地方公共団体は「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、財政状況を統一的な4つの指標で公表し、必要な場合には財政の健全化や再生の迅速な対応を取るこ

育、女性活躍、環境保全、雇用対策、空き家対策などについて、民間事業者と協定を結んでいます。
企業が持つノウハウや最新の技術、サービスを行政に取り入れて、町民サービスの向上を図っていきます。

町長 民間事業者との連携協定の窓口を設けることは、有用であると思います。令和5年4月に組織の改編を行いますので、その点も踏まえて環境を整えていきたいと思

ととされています。9月定例会において、令和3年度決算における指標が報告されましたが、改めて4つの指標である「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の説明を求めます。

2点目として、行政区から道路インフラの整備や補修などに関する要望や請願などが何年も前から多くの件数が町に寄せられていると聞いています。これら进行处理していくためにも、積極的な財政運営を行うことで道路インフラに関する事業を行っていく必要があると考えますが、町長の見解を伺います。

企画財政部長 令和3年度決算における各指標については、「実質赤字比率」は一般会計の実質赤字額の標準財政規模に対する比率、「連結実質赤字比率」は連結会計の実質赤字額の標準財政規模に対する比率を示すもので、両方とも実質赤字額がないため該

当なしとなります。「実質公債費比率」は一般会計等が負担する元利償還金等の標準財政規模に対する比率を示すもので、6.8%です。「将来負担比率」は一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率を示すもので、38.2%です。全ての指標は健全段階にありますが、今後も健全な財政運営に心掛けていきます。

町長 私が町長に就任した当時は、行政区からの道路補修などの要望が270件ほどありましたが、現在は190件ほどに圧縮させることができました。安全な道路環境を維持していくためにも、財政の全体的なバランスを考慮しながら、公共工事もなるべく実施できるようにして、行政区からの要望にも計画的に取り組んでいく考えです。



少子化対策について



増田 光利 議員

町執行部の資料によると、令和3年度の町内の出生数は95名とのことです。出生数の減少は今後のまちづくりにも大きく影響します。現在、町内には小学校5校、中学校2校ありますが、その再編も考えていかなければなりません。町では「学校のあり方検討委員会」を設置し、今後計画案が策定していくものと思われれます。委員会の開催状況やいつ頃に最終的な答申を整理していくのかを伺います。

教育長 町立小学校、中学校の将来のあり方について、幅広い見地から検討していただくために、「学校のあり方検討委員会」を設置しました。今後、小中学校の適正規模、適正配置など、当町の学校のあり方について協議をしていただき、教育委員会に提言していただく予定です。

11月に第1回委員会を開催しましたが、まず、小中学校施設の状況や今後の児童生徒数の推移、近隣市町の状況など、現状を説明しました。十分に協議を重ねていただくため、提言の期限については特に決めていません。

令和4年度において、東中学校の野球部は古河市の中学校と、八千代第一中学校のサッカー部が常総市、坂東市の中学校と、八千代第一中学校の女子ソフトボール部が古河市の中学校と合同でそれぞれ活動しています。今後は、八千代第一中学校と東中学校の町内2校が合同で部活動を実施することも検討しています。

す。また、令和5年度から「部活動地域移行検討委員会」を設置し、部活動の地域移行の検討を行っていきます。

その他の質問
・英語教育の充実や特色ある教育環境の整備について



議会に関する情報はホームページでもご覧いただけます

議会のホームページはこちらから！



八千代町 議会

議会の構成

議会運営委員会

委員会の構成が

変わりました

小島由元議員の逝去に伴い、議会運営委員会の委員が1名欠員となっていたため、12月定例会で委員の選任を行い、新たに水垣正弘委員が就任しました。



委員
水垣 正弘

委員長 宮本 直志
副委員長 上野 政男
委員 中山 勝三
生井 和巳
水垣 正弘(新)
大久保 敏夫

議会運営委員会

ってどんな委員会？

議会運営委員会は、議会をスムーズに運営するための話し合いを行う委員会です。定例会・臨時会の日程や本会議の進行手順など、議会運営の全般について協議や意見調整を行っています。

八千代町議会では、議会運営委員会の委員の定数は6人とされており、議会運営委員会の会議には委員のほか、議長が出席することになっています。



会議の様子

委員会紹介